

事業再評価について

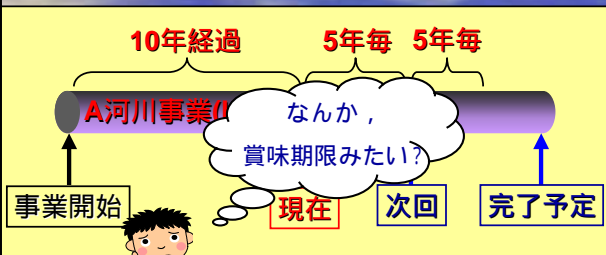
再評価がうまれたわけ？

- 長引く景気低迷
- 公共事業予算の減少
- 公共事業への関心の高まり
- 情報の透明性の確保
- 国民の環境回帰指向

・環境への影響は？
 ・時代のニーズに合うか？
 ・他の方法はないの？
 などの疑問に答える

そのため、国土交通省の事業について
公共事業を評価する仕組み

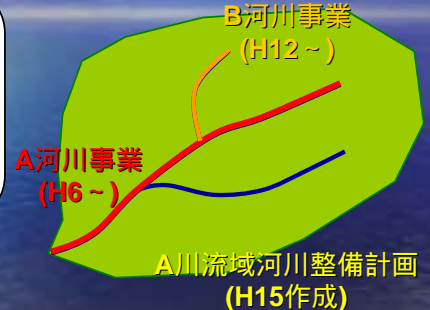
時間とともに変化する社会ニーズ



[対象] 事業採択後5年経過して未着工
 事業採択後10年経過して継続中
 再評価実施後5年経過した事業

計画は今、でも、事業は昔から・・・

なぜ、河川整備計画をつくったばかりなのに再評価するの？



再評価で事業を確認する必要あり

事業は、**河川整備計画が決まる前から**行われてきたんだ。と、言うことは・・・

事業着手後、**一定期間経過した事業は、やはり見直すべき点があるのか**確認する必要がある。

再評価のルール（千葉県版）

[誰が] すべての公共事業について
 （千葉県土木部・都市部所管国庫補助事業再評価実施要領）

- 1) 河川事業・ダム事業であり、
- 2) 河川整備計画策定のための流域懇談会がある場合



再評価のやり方

[流域懇談会の視点]

[評価監視委員会の視点]

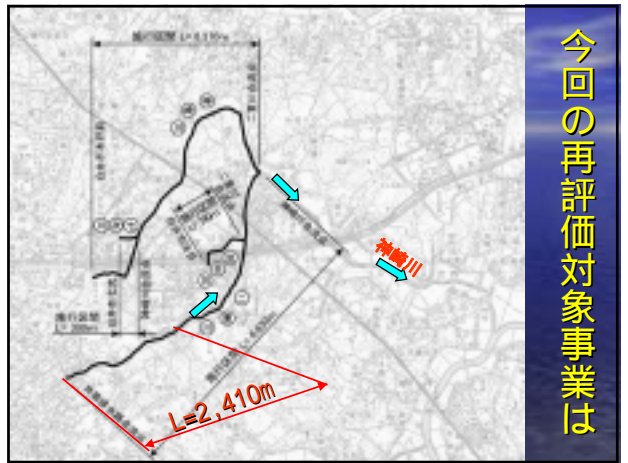
- 事業の進捗状況
- 社会経済情勢等
- コスト縮減・代替案の可能性
- 事業の投資効果
- 河川整備計画との整合
- 地域への恩恵

[継続]

審議

[中止]

流域懇談会の結果に基づき河川管理者が判断



今回の再評価対象事業は

視点 事業の進捗状況

全体事業費	33億円
H15まで投資額	26億円 (H6~)
進捗率	78%
残工事内容	築堤・河道掘削

進捗における課題

流域の上流台地の市街化が著しく、平成に入り、10回以上の浸水被害が発生しており、早急な対応が必要

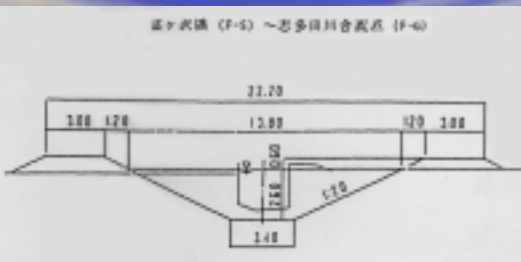
視点 社会経済状況

船橋市、鎌ヶ谷市、白井市の3市にまたがり、千葉ニュータウンを始めとし、都市近郊のベッドタウンとして都市化が進む。

当該箇所



視点 コスト縮減案等



現状の河川法線を最大限重視し、土羽河岸を原則とした、必要最低限の河道改修となっています。

視点 事業の投資効果

想定氾濫区域 43ha

50年に1度の洪水規模で発生する被害額は、

A) 家屋被害、家庭用品被害、

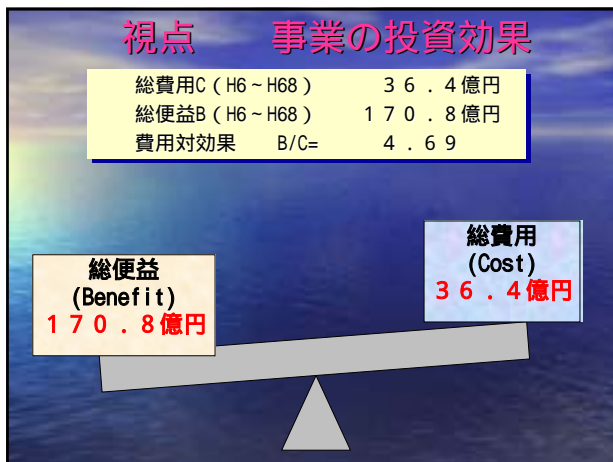
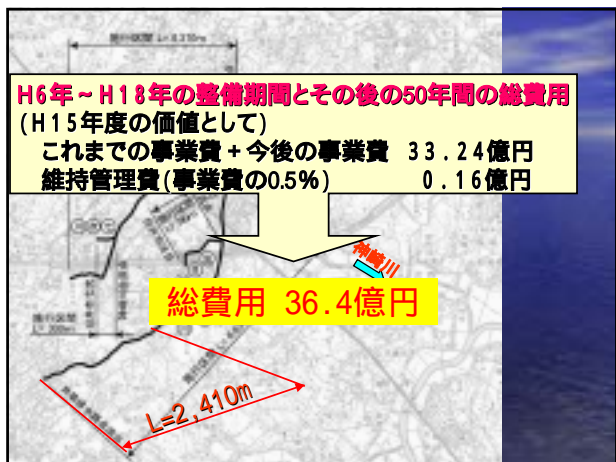
農作物被害などの一般資産被害額 7.3億円

H6年~H18年の整備期間と
その後の50年間の総利益
(H15年度の価値として)

総利益
(Benefit)
170.8億円

合計20億円

年平均被害軽減額7億円



事務局提案

[視点 事業の進捗状況]
進捗状況 78%, H18年度完了予定。

[視点 社会経済状況]
近年でも洪水被害が頻発している。

[視点 コスト縮減案等]
最低限の用地確保で最大の効果が得られる。

[視点 事業の投資効果]
費用対効果 B/C=4.69

よって、事業を「**継続する**」のが妥当と判断